

地域おこし協力隊 活動記 Vol.88



子どもから大人まで楽しんでいる様子でした。



五月六日、弘前市りんご公園でこなった「弘前りんご花まつり」では、相馬紙漉き隊が催した、手漉き和紙体験の手伝いをしました。手伝うといっても片付けくらいで、和紙の原料や作り方についての話を聞いたり、実際に紙を漉いてみると、ほとんどゲストのようでした…。たくさんの方を教えてくれた隊員の方々のおもてなしに感謝です。

協力隊の穂坂修基（ほさかもとき）です。相馬に引っ越してきて一か月が経ちました。生活に慣れてきたので、夏野菜の栽培を始めました。耕運機などの機械なしでの畑仕事は、身体的には大変でしたが、自力やっているという清々しさがありました。都会から来た若輩者が、野菜を作ることができるのか…。自給自足の「的」な生活を送ってみたいです。



薄い銅板を先の丸い釘で叩いて形作りしました。翌日は、腕が筋肉痛に…。



着任時に櫻田市長から拝受した辞令は、紙漉沢の和紙に書かれていました。その和紙がどのように作られているのを知れて、感動しました。

五月二十三日、中央公民館相馬館研修室でおこなった「やすらぎ館セミナー相馬熟」※1では、表札作り体験講座（講師…三上拓実氏）に参加しました。完成品がコチラ（左写真）。手作りでこのクオリティーです。すごくないですか。自画自賛。現在住んでいる水木在家の豪邸に相応しい、高級感のある表札が完成したと自負しています。丁寧に教えてくれた講師の三上さんのおかげ、いい表札が作れました。感謝です。

そして、参加者の方々とワイワイ話しながら体験できたのが、なによりも楽しかったです。

五月二十四日、弘前市りんご公園でおこなった「初心者向けりんご研修会」では、摘果について学びました。「中心果」「側果」「障害果」「新梢」など、初めて聞く単語ばかりで頭がパンクしそつでした…。ですが、講師の方々のわかりやすい説明のおかげで、りんご作りの「い・ろ・は」の「い」を少し理解することができたと思います。

相馬の代名詞の一つである、りんご。その、りんごを生産する人の思い、蓄積してきた高い技能、代々受け継がれてきた美しい景観など、相馬のりんごの背景には様々な魅力があります。魅力を知って食べるりんごはさらにおいしくなるのだと思います。

相馬のりんごとその魅力を全国の消費者に届けるべく、私自身が生産に関わり（お手伝い程度ですが…）、多面的・多角的にりんごを語れるようになりたいです。

※1 相馬の住民を対象に各年代や領域に応じた生涯学習講座



果てしない作業…。プロの生産者は、一年で何個の側果を摘んでいるのだろうか…。

（*）相馬地区公式HP（<http://www.city.hirosaki.aomori.jp/soma/>）

